

Series

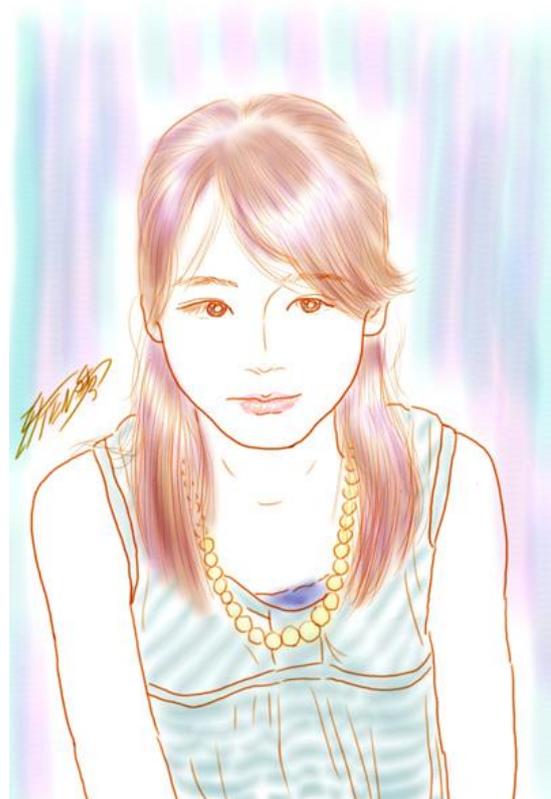
私の漢方診療日誌

No.130 給食を食べられなかった女の子が宇宙食を食べる日 不安からくる腹痛に加味帰脾湯

今年は、国際天文年にあたり、世界の目が宇宙に向いています。日本でも、宇宙飛行士を目指す少女のドラマが放映されたり、日本人の宇宙飛行士も実際に活躍しています。今回は、宇宙飛行士を目指す女子中学生のお話です。

Aさんは、中学一年生の女の子です。中学に入学した後、五月から腹痛と下痢が続き、トイレが近いため授業中席についていられないと言います。緊張すると症状が悪化することを自覚しています。朝食や給食を食べるとすぐ下痢になるので平日は夕食しか食べられず、体重も減る一方です。近くの医院で、桂枝加芍薬湯 (TJ-60 ケイシカシャクヤクトウ)、半夏瀉心湯 (TJ-14 ハンゲシャシントウ) などの投与を受けましたが、改善せず当院へ紹介されました。診察室に入って話を始めたたん、いきなり「アッ！」と叫んでお腹を押さえ、「トイレ行ってきます」と便意を催して出て行ってしまいました。落ち着いたところで診察してみると腹部聴診上、腸蠕動音が不規則で亢進していました。腹力はやや弱く、右胸脇苦満と、お臍の上に圧痛点がありました。舌は淡白舌で、脈は沈んでいました。

最初に、真武湯 (TJ-30 シンブトウ) を、1包ずつ朝、夕2回処方しました。すると、初診翌日より、ずっと休んでいた学校へ行けるようになりました。しかし、下痢は残っており、すぐトイレに立てるよう一番後ろの席にすわっているということでした。その後、腹部症状はおちついていましたが、本人が、「何かにつけ心配でしかたない。」と訴えるので、真武湯に、加味帰脾湯 (TJ-137 カミキヒトウ) を1包ずつ、朝、夕2回で追加しました。すると、二週間後、腹部症状は全く無くなり、半年近くの期間、食べられなかった朝食と給食が食べられるようになったそうです。健康な状態だとお昼を食べるなんてあたりまえのことです。しかし、あたり前のものが長期間食べられなかったのは彼女にとってやはり辛かったようで、「給食が食べられるようになったんです！」と涙を流して喜んでくれました。そして、一番後ろの席を自分で辞退し、教室の一番前の席で授業を受けられるようになったばかりでなく、生徒会会長の候補に推薦され、選挙で副会長となり、生徒会でどうと発言できるようになりました。



一般に、器質的異常がなく、腹痛や下痢を繰り返す場合、過敏性腸症候群が疑われ、漢方薬としては、桂枝加芍薬湯や半夏瀉心湯のほか、桂枝加芍薬大黄湯（TJ-134 ケイシカジャクヤクダイオウトウ）、真武湯、人参湯（TJ-32 ニンジントウ）など症例に応じて様々な処方が投与されます。今回著効した加味帰脾湯は過敏性腸症候群に対しては、それほど出番の多い薬ではありません。加味帰脾湯は、帰脾湯に柴胡と山梔子を加えた処方です。出典である濟生全書には「思慮脾を傷りて瘡痢をなすには、柴胡、梔子を加えて加味帰脾湯と名づく」とあり、くよくよ考えすぎて、胃腸が弱り、下痢がひどくなる今回の症例にはぴったりでした。益田総子先生は、加味帰脾湯が効くタイプの特徴として、①先回りして心配し、論理的な説明で納得しない、②何回でも同種の心配を繰り返す（学習しない）と述べていらっしゃいます。

加味帰脾湯で元気になった彼女は、将来は、高校の物理学科へ行き、天文学者か宇宙飛行士になるのが夢だと嬉しそうに話していました。いずれは、彼女が宇宙に行って、宇宙食を美味しそうに食べる姿を伝えてくれるのではないかと、私は期待して待っています。